

鉄鋼概況

2011年世界鋼材消費量 過去最高更新の見通し

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

8月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比2.4%増で、1年5カ月ぶりに500万トンを上回った。普通鋼鋼材流通在庫は前月末比0.6%増、販売量は前月比5.1%減で、8月末の国内在庫率は前月末比6.1ポイント上昇して107.7%となった。9月の粗鋼生産は、前年同月比11.7%増と11カ月連続で前年同月実績を上回った。2010年度上期（4～9月）の粗鋼生産は前年同期比28%増で、フル生産が続いていた金融危機前の2008年度上期実績の9割強の水準まで回復した。9月の輸出（全鉄鋼）は前年同月比4.4%増と14カ月連続の前年比増となった。経済産業省の2010年10～12月期鋼材需要見通しによると、需要量相当の粗鋼生産量は前期比1.5%減で2期ぶりに減少すると見通している。資源大手の英リオ・ティントと豪BHPは、西豪州の鉄鉱石生産事業の統合計画を断念すると発表した。世界鉄鋼協会が発表した2010、2011年の世界の鋼材消費量見通しで、2011年の世界鋼材消費合計は前年比5.3%増の13億3,970万トンで過去最高を更新すると見通されている。9月の世界粗鋼生産量（66カ国）は、前月比1.0%減で4カ月連続して減少した。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

◆2010年度上期粗鋼，前年度28%増

鉄鋼連盟が発表した8月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比11万9,000トン、2.4%増の503万1,000トンとなり、3カ月ぶりに増加した。500万トンを上回ったのは2009年3月以来1年5カ月ぶりである。一方、8月末の普通鋼鋼材流通在庫は、鉄連が行った全国市中鋼材数量調査によると、前月末比1万6,000トン、0.6%増と微増の267万1,000トンとなった。8月の販売量は前月比5.1%減の247万9,000トンとなったために、8月末の国内在庫率は前月末比6.1ポイント上昇して107.7%となり4カ月連続して1カ月超となった。

主要製品の在庫状況をみると、薄板3品（熱延、冷延、表面处理鋼板）の8月末国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は、前月末比4.1%、15万3,000トン増の384万4,000トンとなり、2カ月連続の増加で2009年4月（388万トン）以来の高水準となった。在庫率は前月の1.97カ月から2.13カ月に上昇した。例年8月は季節要因から20万トン程度増加する傾向にあるが、国内需要の不透明感が増す中での在庫増加だけに、高炉メーカーでは「危険水域」とみて警戒感を強めている。主要建材製品であるH形鋼の9月末全国流通在庫は新日鉄系建材特約店組織である「ときわ会」の調査によると、前月末比9.7%、1万7,000トン減の16万5,200トンとなった。3カ月連続の減少で17万トン割りを切るのは1973年11月以来、実に36年10カ月ぶりである。新日鉄が実施してきた7、8月の受注スキップが奏効し、かつてない低い在庫水準となった。

鉄鋼連盟が発表した2010年9月の粗鋼生産は、前年同月比11.7%増の923万3,000トン（年換算1億1,230万トン）となり、11カ月連続で前年同月実績を上回った。この結果、

2010年度上期（4～9月）の粗鋼生産は5,542万トン、2009年度上期（4,333万トン）に比較して28%増加した。フル生産が続いていた金融危機前の2008年度上期実績に比して、9割強の水準まで回復した。9月の1日当たりの粗鋼生産は30万7,800トンで、8月に比して約2万トン増加した。9月の炉別生産をみると、転炉鋼が前月比1.6%増の717万トン、電炉鋼が同12.2%増の206万トンで、自動車向け特殊鋼の需要好調や夏季減産の反動増による電炉メーカーの生産増が目立った。

財務省が発表した9月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼）は前年同月比4.4%増の370万5,000トンと14カ月連続の前年比増となった。9月としてはリーマン・ショック前後の2008年に記録した384万4,000トンに次ぐ2番目の高水準だった。輸入は同47.0%増の52万7,000トンと9カ月連続して前年を上回った。国別輸出では最大向け先の韓国・台湾などアジアNIE's諸国向けが135万1,000トン（前年同月比11.1%減）と3カ月連続の前年割れだったほか、中国向けも58万9,000トンと3カ月連続で減少した。ASEAN向けは103万トン（同25.9%増）と増勢が続いている。アジア以外では米国向けが13万6,000トン（同2.0倍）、中東向けが10万2,000トン（同34.4%減）、EU向けが4万7,000トン（同20.9%減）、ロシア向けが3万2,000トン（同44倍）だった。国別輸入ではアジアNIE'sからが27万7,000トン（同16.7%増）、中国からが7万1,000トン（同11.0%増）、ロシアからが2万6,000トン（同4.9倍）だった。

9月の輸出入統計の結果、2010年度上期（4～9月）の輸出入は、輸出は前年同月比24.3%増の213万4,000トン、輸入が同98.8%増の371万4,000トンとなった。地域別輸出はアジア向けが同18.6%増の1,772万2,000トンと全体の83%を占め、最大の向け先はアジアNIE'sで797万トン、次いで中国が374万1,000トンだった。

◆10～12月粗鋼需要2,698万トン——経産省見通し、

経済産業省は2010年度第3四半期（10～12月）の鋼材需要見通しを発表した。それによると、需要量相当の粗鋼生産量は2,698万トンで、前期の粗鋼生産実績に比較して1.5%（40万トン）減少して2期ぶりの減と見通している。鋼材需要の見通しでは、前期比0.9%減で、このうち国内需要は同0.9%減の1,542万トン、輸出向け需要が同0.7%減の842万トンとなっている。国内向けでは、製造業のうち自動車はエコポイント制度終了に伴う反動減から鋼材にして前期比7.3%減少して261万トンと見通している。造船は微減で、産業機械、電気機械は増える見通しとなっている。建設では、季節要因から土木が14.4%増と見ている。輸出は円高による採算悪化で海外メーカーとの競争が激化しているほか、中国を中心としたアジア市場で先行き不透明感が強まっていることを受けて、前期実績を下回る見通しとなっている。なお、この見通しを織り込んだ2010暦年の粗鋼生産は1億900万トンとなり、2009年比では約24%（2,140万トン）増となる。

◆リオ・BHP、鉄鉱石統合計画断念

資源大手の英リオ・ティント（鉄鉱石生産2位）と豪BHP（同3位）は、2009年6月に西豪州の鉄鉱石生産事業の統合を発表していたが、両社は2010年10月18日に統合計画の断念を公表した。両社の統合には鉄鉱石市場の寡占化が一段と進み、価格上昇につながる懸念から鉄鋼業界は猛反対しており、両社は各国・地域の競争当局から統合の承認が得られない見通しとなったことが、計画断念の理由としている。世界の鉄鋼業界は計画断念に安堵の声が上がっているが、鉄鉱石供給の3社体制は変わらず、鉄鉱石の値上げ圧力

は続く可能性が高く、資源権益の確保などを通じた対策が引き続き求められる。

◆2010、2011年世界鋼材消費——WSA見通し

世界鉄鋼協会（WSA）の年次総会が2010年10月初めに東京で開催され、その席上事務局より、2010、2011年の世界の鋼材消費量見通しが発表された。それによると、2010年は世界合計で12億7,220万トン（前年比13.1%増）、2011年は13億3,970万トン（同5.3%増）と13億トンを突破し過去最高を更新すると見通している。

2010年は、EU、NAFTA（北米自由貿易協定）、CIS（独立国家共同体）のほか、途上国の需要も予想以上に回復し、昨年に策定した需要見通しの伸び8.4%増から今回は13.1%増と2ケタ増に修正した。その結果、これまでの最高値（2007年の12億2,200万トン）を上回る。

2011年は中国など新興国の増加に加え、欧州や米国など先進国でも一定の需要回復があると見込んでいる。中国は前年比3.5%増の5億9,900万トンと見込んでいるが、伸び率は2010年の6.7%からほぼ半減する。不動産投資の鈍化や景気刺激策の終了の影響と見込まれている。インドは13.6%増の6,800万トンとなり、前年の8.2%増よりもさらに加速する。日本、米国、EUなどの先進諸国は前年比4.6%増の3億7,530万トンと見通しており、2009年比23.2%増と見込まれる2010年に比べ、伸び率は大幅に低下する。各国が展開した景気刺激策も一巡し、需要は金融危機前の2007年に比較して2.7%低い水準にとどまる見通しである。

表1 世界の鋼材見掛け消費量

	(単位:100万トン, %)					
	2009	2010	2011	09/08	10/09	11/10
EU-27カ国	117.2	139.4	147.4	△35.7	18.9	5.7
その他ヨーロッパ	23.9	28.7	31.4	△17.3	20.1	9.5
CIS	35.8	45.3	50.3	△28.3	26.5	11.1
北米	82.7	108.5	118.0	△36.2	31.3	8.7
中南米	34.1	43.6	47.6	△23.6	28.2	9.1
アフリカ	26.6	28.0	30.0	9.7	5.1	7.1
中東	42.2	45.6	47.6	△7.5	7.9	4.4
アジア・オセアニア	762.8	833.1	867.4	8.9	9.2	4.1
世界計	1,125.3	1,272.2	1,339.7	△6.6	13.1	5.3
中国	542.4	578.7	599.0	24.8	6.7	3.5
BRIC	641.1	696.0	730.1	17.5	8.6	4.9
中国除く世界計	582.9	693.5	740.7	△24.4	19.0	6.8

(注)見掛け消費量(生産+輸入-輸出) (出所)世界鉄鋼協会

◆9月世界粗鋼生産、前月比1.0%減に低下

世界鉄鋼協会のまとめによると、9月の世界粗鋼生産量（66カ国）は、日数差もあり前月比1.0%減の1億1,174万トンと4カ月連続して減少した。前年同月比では0.9%増と12カ月連続で前年水準を上回ったが、中国の生産減を反映して伸び率は大幅に低下した。中国は4カ月連続して前月比減となり、9月は前月比7.1%減の4,795万トンと9カ月ぶりに5,000万トンを割り込んだ。前年同月比でも2009年4月以来の減少に転じた8月に続く前年割れで、減少幅も拡大し調整色を強めている（先月号の記述参照）。中国の9月の日産量は前月比4.1%減と5カ月連続で減少し、中国以外の日産量は同7.7%増と4カ月ぶりに増加に転じた。9月の66カ国の日産量は同2.3%増と5カ月ぶりに増加した。 □